

立派な仕事はいつも困難な状況の中から生まれてくる。逆に、いい気になった時に往々にして失敗する。

苦しい時に諦めたり、自暴自棄になったりするの簡単だろう。

しかし、苦しい時こそチャンスであり、そこで徹底的に努力を重ねていけば成功への道が開けることを忘れないでいただきたい。

## 20代で大切な3つの心掛け

日本証券業協会会長 鈴木 茂晴

・・・略・・・

納得のいかない異動や転勤を命じられることも時にあるでしょう。

しかし、そこで愚痴ばかり吐き、やけくそになっては手の施しようがありません。逆にそこで成績を出し、期待に応えれば自らの仕事力が高まり、マルチプレイヤーに育つばかりか、どんどん登用され、引き上げられていく。

**社長や上司はその人の能力を見定めるために意図して人事を決めているのであり、「いま自分は試されているのだ」と思うべきです。**

意に沿わない時こそ一所懸命やる。いま与えられた部署、役割の中で最大限の努力をすることが重要なのではないのでしょうか。

ここまで私の実体験を交えつつ、いろいろな話をしてきましたが、最後に20代の皆さんにお伝えしたいことが3つあります。

1つは、「**とにかく若いうちは死ぬほど働くこと**」。誤解しないでいただきたいのは、ここで言う死ぬほど働くとは長時間働くことではありません。**限られた時間内にどれだけ高い集中力を持続し、最高のパフォーマンスを発揮できるか**です。

そして、会社が終わってからの時間は、死ぬほど勉強すること。少なくとも入社して5年、10年は一所懸命勉強し、仕事に関する専門的なスキルや資格はもとより、幅広い教養を身につけるべきです。そういう努力の蓄積がいざという時や重大な決断を求められた時、厳しい局面を乗り越えていける力となる。これはもう間違いありません。

2つ目は、「**リスクを取る人間が伸びる**」ということです。リスクを取ると言っても、何でもかんでも勝手に自分でやっていいわけではなく、もちろん上司にまず相談しなければなりません。その時に、「A案とB案とC案の3つが考えられます。A案はこういうリスクもありますけど、私はこれをやりたいです。なぜなら・・・」と提案できるか。

**「A案とB案とC案がありますけど、どれにしましょうか」と聞く者は下の下です。**

**上司に判断を委ねるのではなく、自らの心意気を伝え、挑戦する。失敗しても構いません。そのようにトライアル・アンド・エラーを重ねることで、実行力や判断力が磨かれていくのです。**

3つ目、これは社員によく話すのですが、例えばある営業マンがニューヨーク本店勤務を希望してきたとしましょう。その時、私はこう言っています。

「必ず行かせてあげる。ただし、条件が2つある。1つは今いる部署で他の人よりも確実に成績を上げなさい。もう1つは海外勤務に必要な語学力を習得しなさい」

**目の前に与えられた仕事をまず徹底的にやり抜き、最高の成果を出す。すべてはそこから出発することを忘れないでいただきたい**と思います。

